

A. 3つの共同体（血縁・地縁・金縁）の相互比較と事例

3つの共同体の特徴と事例を挙げて共同体形成と経済構造について述べ、それぞれの違いをみる。

1. 血縁共同体：人類の発生した原始時代の遺跡は、ジャワ島のトリニールに直立猿人ピテカントロプスエレクトゥス、北京南西部に北京原人シナントロプス・ペキネンシス、そしてドイツのハイデルベルグ人に見られる。共同体は生活し家族を維持していくために厳しい自然環境や猛獣から身を守るために身近な者から互いに協力する必要があった。それは強い結びつきである家族という血縁関係から始まった。原始時代は大きく分けて、石器時代、銅器青銅器時代そして鉄器時代に分けられる。石器時代の初期には集団で狩猟や植物の葉や果実の採取を行い、住まいは洞窟や安全な場所で集団生活を行っていた。中期になると生活器具が発達し、骨角器や食料貯蔵用の土器が使われるようになる。大きな変化としては火の使用がある。暖をとり、調理をし、獣からの防衛、道具の制作に使われ文化を発達させた。長老が郡集団をまとめ、狩猟は男子、植物の採取や育児は女子と自然分業が成立していった。後期になると新生人類が登場し、フランスのオーリニャク、ソリュートレ、マドレーヌにその文化を残している。特徴としては刃先の鋭い小型石器、弓矢、土偶、装身具、衣服などが見られる。郡集団が存在しアニミズムという呪術を行うものが登場した。新石器時代になると農耕・牧畜が始まり遊牧生活から定着生活に移っていった。これにより土地という観念が意味を持つようになる。集団行動においても森林の伐採、土地の焼き払い、自然や他の集団からの防御などに変化していった。血縁社会が拡大した組織になり「同一血族」という氏族社会が形成されるようになる。イギリスではスコットランド部族、ドイツではジッペ、日本では氏が形成される。この社会を維持するためにトーテムという祖霊信仰を中心にした政治・経済が行われる。血縁共同体の原始社会は以下の4つの特長を持っている。①経済生活の領域が他とは独立した段階まで分化していない。②郡集団として組織されたが、身分関係が生じなかった。③人間と自然が同一法則に従っているという意識があった。④集団を作る過程で血縁意識が重要視された。

2. 村落共同体：農業・牧畜を主体とし必要な土地を獲得し定住生活に移ると共同体メンバーによる村落社会が形成される。事例として、ゲルマン民族のマルク共同体、ロシアのミール、インカのマルカ、ジャワのデッサがある。経済活動は、地縁関係が主となり、農耕生活、土地の灌漑、開墾作業、自給的な道具の生産、居住用の家屋の建設などが多くなる。族長による「禁忌行事」による祭政一致が行われる。次第に大家族集団となり家父長的になり、地縁関係による閉鎖的な集団へと形成されていく。更に土地の共同保有・使用から私的な分割利用、世襲的な私的所有などが生じ更なる分割保有や私的所有が生のは必然となる。村落共同体の特徴は、内部に強く外部に弱い組織となり、自給自足の封鎖的な経済単位の性格を持っている。財の私的所有が始まると崩壊することは必然である。

血縁共同体と地縁共同体の差異は、組織が大きくなり大きな力を持つ者が、私的な利益を得ようとし、経済価値が次第に明確になり、価値を保有しようとするものが登場する。

3. 金縁共同体：原始社会の共同体が拡大していくと必然的に土地の争奪が始まる。この争いのため指導者が登場し新しい社会の建設が始まる。ここに古代社会特有の古代国家が成立する。東洋と西洋の古代国家の成立を見る。東洋においては、エジプトではファイユーム、タサ、アシュード遺跡、メソポタミアではバビロニア地方がある。インドではパンジャブ地方ハラッパ、モヘンジョダロの都市、中国では殷、周王朝、日本では大和政権などが形成される。これらに共通して言えることは、①大河の文化②農業中心③官僚制度④専制的な中央集権国家である。

西洋の古代社会は、「海洋（地中海）の文化」であり、東洋とは反対に、中央集権的・専制主義的な絶対国家ではなかった。群小の都市国家であった。ポリスと呼ばれる小集団が形成され政治・軍事・祭祀等ポリス感での分業が見られた。ギリシャではアテネ、スパルタなどのポリスがある。ポリスの共通点は①氏族制により成立した社会②自ら武装した戦士層の存在③商工業・手工業層の存在であり、分業の形態が芽生え、機能分化が始まる。ローマでは共和制が樹立、ポエニ戦争を経て大帝国を作る。社会経済は分業が発達し、軍事と同様に経済が重要視された。

地縁共同体と古代国家との違いは、土地の拡大による争いに備えて軍備の分業が明確になった。また経済の分野でも分業が発達し、文化が進展する。権力者が制度のもとに国家を治めるようになる。

以上 (A)